　２０２２年度事業報告書

特定非営利活動法人くろとり山荘

１．ＮＰＯ活動

２０２３年３月末時点での会員数は正会員36名（昨年33名）、賛助会員88名（昨年91名）となり会員数は横ばい状態である。会員費は、正会員費87,000円（昨年137,000円）、賛助会員費276,000円（昨年283,000円）、会員費計363,000円（昨年420,000円）で未収もあり減少となった。会員費は主に会報の郵送費、什器備品費などに使用した。来年度は会員を増やし、会員費も増やしていくことが求められている。

会報「山荘だより」は、利用者、ご家族、スタッフの協力を得ながらこれまで通り３ヶ月に１回、年４回、約３００部発行してきた。これまで同様、会員をはじめ山荘各町会での回覧や個配、医療・福祉関係者などへ郵送した。コロナ感染対策もあり、ご家族や地域の方との交流・催しができなかったが、会報で、利用者の紹介、家族の思いや介護・医療などの啓発活動を行った。ホームページ、ブログの亢進は充分でなかったが、インスタグラムでも発信するようになり、これまでフォロワー数３７８、更新者（いいね）１５～２０名となっている。

寄付していただいた竹林は森林ボランティアやスタッフにも協力していただき、竹の伐採や草刈りなどおこなったが、夏場などは草刈りが追いつかない状況もあった。できるだけ、竹林も整備し花などをもっと多く植え、地域の癒しの場となるようにしていきたい。また、町会の年２回のクリーンキャンペーンにスタッフも参加し、デイサービス近辺の草刈りを行った。

２．デイサービス活動

デイサービスの２０２２度の経営状況は、年間利用者数が少なかった２０２１年度の3,295人をさらに大きく下回り2,971人と危惧されていた3,000人を下回った。月平均利用者は247.6人となり最低目標とする300人も大きく下回った。利用率も数字上は昨年度59.2％から62.2％と上がっているものの、昨年６月より利用者数減少、職員確保も困難だったことで定員を１８名から１５名に下げ、規模を縮小したことによるもので経営指標とされる80％にはほど遠い数字となっている。昨年度同様に利用中止が９名と変わらず、逆に新規利用者が昨年度の５名から今年度１３名と増えているにもかかわらず利用者が減っている。それは利用者数としては登録されているものの病気やレスパイトで入院されたり、ご利用を拒否されたり、老々介護によりご家族が入院されたため施設に長期間利用される方があったためである。また、コロナ禍で利用を控える利用者もあった。さらに、新規利用者も短時間や週１～２日の利用日数の少ない方が増える傾向にあった。

介護度も要支援や要介護１、２の利用者が増え、開設当初、平均介護度が４近くあったのが、昨年度は３．４２にまで介護度は低下している。利用者１人当たり単価も昨年度の13,488円から今年度は12,033円と1千円以上下がった。下がった要因は平均介護度が下がっただけでなく、利用時間の短縮や介護報酬の個別機能加算、入浴加算が下がったこともある。こうしたことから月平均の介護給付費も3,272,450円と昨年よりさらに下がり経営目標とする４００万円に遠く及ばない状況となった。これに伴い、年間の介護給付費も35,996,951円と４千万円を大きく下回った。地域密着型通所介護で通常の通所介護より基本単位数が高く、介護報酬で他施設ではあまり加算されていない入浴介助加算（Ⅱ）や重度加算等、加算が可能なものは出来る限り高い算定していることから他施設よりも高単位数となっている。このため、他施設より利用料が高く利用者やケアマネが利用を敬遠されたり、利用日数を減らす要因にもなっている。しかし、当デイサービスのように重度の利用者を介護、看護していくには他のデイサービスより多くの人材が必要であり、また、そうでないと利用者、ご家族の要望にも応えていくことはできない。来年の介護報酬改定にあたって、それぞれ介護現場の実情に見合った報酬にしていくように声も上げていく必要がある。

デイサービスの事業収益は41,930,869円（昨年度48,803,299円）、介護職員処遇改善支援補助金や燃料費補助金など大阪府や和泉市の補助金が464,053円あった。また、退職者や養老保険満

期による積立金の雑収益も4,040,260円ありＮＰＯ法人の会費や寄付金も併せて経常収益は46,909,961円となった。一方、退職金を含む人件費は41,985,912円、その他経費10,207,593円で合わせて事業費は52,193,505円となった。ＮＰＯ法人の管理費併せて経常費用52,350,514円（昨年度49,561,197円）となり、今年度のＮＰＯ法人全体の赤字額は5,440,553円（昨年度757,898円）と大幅な赤字となった。利用者減に合わせた人員配置などで人件費の抑制や、ムダな物を見直すなど経費節減に努めたがこれまでにない赤字額となった。一方、経営が赤字ながらも職員のモチベーションをあげるため、年度末に勤勉手当を支給した。年次有給休暇もできる限り取得できるように努めたが人員補充が困難を極め、職員の希望が充分叶えられなかった。

経営悪化はベースとして新型コロナ感染の影響があり、利用を控えられるだけでなく社会全体の動きが鈍く、またケアマネ等とも対面で接する機会が減るなどしたことで利用者の問合せ、紹介が減ったことなどがある。昨年の夏以降月一人のペースで利用者が増えつつあったが、利用に結びついても病気で入院され、その後入所されるようなケースも何人かあり、利用登録はされているものの実態としては利用されていないケースもあった。利用者は褥瘡・創傷３名、浣腸・摘便１３名、胃瘻・経鼻４名、吸引２名、気管切開２名、持続導尿２名、人工呼吸器１名、ＶＰシャント１名、また、認知症Ⅲ以上１１名、難病２名おられる。このように他施設では利用困難な重度の方が多く、そのため入院、ショート、また入所、死亡で利用中止となるケースが重なることも多く、常に経営リスクを伴っている。こうしたリスクを避けるため利用ケアマネに対して利用の空き情報を伝えたり、これまで利用していただいたケアマネにも会報と一緒に空き情報などを伝えた。また、これまで同様重度の利用者の受け入れだけでなく他市、短時間利用の受け入れも行うようにしたが以前のような利用者数には至らなかった。

新型コロナウイルス感染防止対策は、これまで同様利用者、スタッフ全員のマスク着用、来所時のうがい、手洗いの励行、消毒剤による清掃、換気などの感染防止対策を継続した。消毒剤などの寄贈が看護協会等からあり活用した。また、ワクチン接種の確認や利用者、家族、スタッフの感染疑いや濃厚接触者の場合、抗原検査を実施して感染予防にも努めた。フラワーアレンジメントやドッグセラピーなどのボランティアの方々には活動再開を徐々にお願いし、より楽しんでいただけるレク活動へとつなげていった。こうした感染防止対策を行ったが、利用者からは３名の感染者があった。１名は咳がでていた利用者の感染をデイでの抗原検査で確認し、直ぐに自宅に帰宅していただいたが、それまでに介護に携った１名が感染した。他の２名は家族からの感染と入院中の病院での感染によるものだった。職員のコロナ感染も上記の１名ともう１名、家族からの感染者があったが、それぞれ単発でクラスターの発生には至らなかった。

運営指導が順番に予定されており、その対策として契約書、重要事項説明書や計画書等の書類整理、ＢＣＰ（自然災害、感染症）、高齢者虐待、ハラスメントのマニュアルの見直しなどを行ったが今年度の指導はなかった。来年度も指導の可能性があり、順次見直し、整理を進めていく。和泉市の会計検査院の調査があり、広域指導課より処遇改善加算に伴う資料提出を求められ、再整理、再見直しも行って提出したが、調査指導には至らなかった。

地域密着型通所介護として地域の方にもご利用いただいているが、山荘町住民の利用者は延べ人数２３名、現在は４名の方にご利用していただいている。地域の代表の方のご意見を聞く地域密着型通所介護運営推進会議は年２回開催予定だったが、コロナ感染予防対策のため書面開催となった。できるだけ機会あるごとにご意見を伺い、地域の人の要望にも応えていくデイサービスをめざしていきたい。

　昨年の苦情件数は６件で、安全運転・送迎時間、送迎時の対応、オムツ・パットのあて方、皮膚トラブル、町会員から送迎中の携帯電話使用によるものがあった。説明不足によるものもあり、謝罪と共に誤解を招かない様に説明を行った。要望・意見も１１件あり、連絡袋の確認不足、連絡ミス、送迎時での挨拶・態度、送迎順路、処置のやり方、サービス提供の方法などについてご指摘をいただいた。指摘いただいた点については苦情処理簿、要望・意見簿、スタッフ会議等で改善策の検討を行い改善した。

2022年度アクシデントは上半期67件、下半期75件の計142件あった。今年度も忘れ物、業務抜け落ちが30件と多く、車両送迎が20件と続き、昨年と同じようなアクシデントが多くみられた。重大な事故として利用者宅において車椅子でスロープを降りる際に職員と共に倒れこみ、後日痛みを訴えられ病院受診の結果、左鎖骨骨折と診断された。謝罪と共に定期的に病院にお連れし完治するまでフォローを行った。その他、フロアーで膝折れによる尻もち、車椅子からのずれ落ち、車椅子からの転落などがあり、同じ利用者の事故も続いた。リスクの高い利用者が多く、常に目配りすることや滑り止め、車いす上での姿勢など注意点を確認し合った。また、少しの力でも内出血をしてしまう利用者が多いことなども会議で周知した。2022年8月よりヒアリハット報告も開始し合計45件で、車両送迎10件・業務抜け落ち7件・忘れ物6件あった。少しでもアクシデントを未然に防ぐためにヒアリハット報告件数を増やしていく。災害対策は４月に地震を想定した黒鳥山公園への避難訓練を重度の利用者も含めた全員参加で行い、避難・集合場所の確認を行った。反省を踏まえヘルメットの購入も行った。１０月には消防署立会いの下、火災訓練を行った。通報、初期消火、避難を重視して行ったが、これまでの訓練の積み重ねで「みなさんの連携がとれていると」評価もいただいた。３月には消防署の立ち入り検査があり、スプリンクラーの下に物を置かないことや年２回防火設備の点検等の指摘を受け改善に努めていく。